

「今、なぜイノベーション」

起業するエネルギーはどこから生まれるのか。群馬を起業しやすい風土にするには？「群馬イノベーションアワード(GIA)」を主催する田中仁財団代表理事を務めるジェイアイエヌの田中仁社長、GIAに賛同した糸井商事の糸井丈之社長、ファームドウの岩井雅之社長、三ライジの小野里洋平社長の県内創業者が「なぜイノベーション」をテーマに熱く語り合った。

意義

農業に力を入れていいるが、今の農家は自分の子に仕事を継がせないのが現状だ。きちんとお金が回る仕組みをつくり、農業分野で起業家を育てたい。

田中 日本は起業家が少ない。群馬から多くの起業家が生まれるように願って昨年、GIAを始めたが、起業家が生まれない原因はどこにあると思うか。

岩井 群馬は環境に恵まれており、起業しなくても食べていけるからだと思います。ただ、農業は別。私は

田中 小野里さんの起業のきっかけは。小野里 起業は成り行き。営業職で売れたため「何でもできる」と過信してしまっただけ。勤めていた会社も社長も好きだったが、理念と行動が合わなくなってきた。自分の思い描く会社をつくらうと辞めた。全財産300万円から始めた。



起業家支援について語り合った田中社長、小野里社長、岩井社長、糸井社長(左から)＝ジェイアイエヌ本社(東京都千代田区)

たなかひとし 1963年、前橋市生まれ。伊勢崎商高卒。前橋信用金庫(現しのめ信用金庫)、服飾雑貨会社を経て独立。2001年にアイウェア(眼鏡)事業に進出し、「JINS」ブランドの新商品は次々にヒット。経営の傍ら慶応大学院修士課程に通い、春修了した。6月、起業家を支援する田中仁財団を設立。



いとい たけゆき 1954年、高崎市生まれ。高崎高1慶応大卒。鉄鋼メーカーを経て79年に鋼材販売スクラップ加工などを手掛ける糸井商事入社。2001年から同社社長。08年、プロ野球BCリーグの群馬ダイヤモンドペガサスの運営会社「群馬スポーツマネジメント」社長となり、09年から同社会長。ペガサス球団代表。

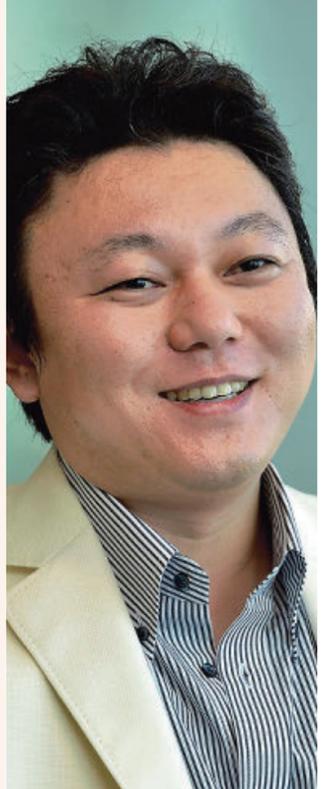


「精神だった。学歴はなく、勤めても先は望めない。でも人一倍、いい生活をした」岩井 三男なので、親から「教員になれ」「国鉄(当業の第一の理由)。

成功体験、若者の夢に

いという欲望があった。それが起業によって個人として成長でき、個人欲から、社会の役に立ちたい」と意

いわい まさゆき 1954年、富岡市(旧妙義町)生まれ。富岡高一東海大卒。いせや現ベイシアを経て93年に独立。翌年、農業資材の大型専門店を設立した。2002年に社名を現在のファームドウに変更。農産物から加工食品、農業生産法人まで手掛ける農業関連ビジネスの総合企業に発展させた。



おのやま ひとし 1978年、藤岡市生まれ。高校卒業後、ダンサーを志して上京。TRFのバックダンサーを務めた経験を持つ。帰郷後、不動産会社勤務を経て、2006年に起業。アパートやマンションなど家賃収入が得られる「収益物件」に特化した不動産事業を展開。メガソーラー事業も手掛ける。

起業にフェアな日本 未知の分野に楽しさ

田中 糸井

田中 今の社会は全体的にエネルギーが枯渇していると思うが、どうか。岩井 私は60歳になり、これから本番と思っている。今までは予行演習。夢があれば、目標を作れる。目標のある人は計画が立てられる。計画ができて初めて実行できる。失敗もあるが、それがいい。簡単に成功するよりいい。失敗を乗り越えようと、夢が実現できない。「夢のサイクル」だ。

連鎖

田中 起業の魅力や難しさはどんな点か。糸井 実業ではないプロスポーツという未知なる分野だったため、振り返ると、いろいろな時間を費やし、授業料も払った。ゼロから始めるところに難しさを感じた。田中 それは若者にとつて夢になる。小野里さんは起業の魅力、難しさをどう捉えているか。小野里 難しいことだからだが、楽しさもある。自営か勤め人かは関係なく、人から喜ばれることをしたい。後悔はしたくない。たった一度の人生だから諦めず、やり抜くと決めている。田中 日本はフェアだと思ふ。アイデアと行動力と人を巻き込むことで、会社はできる。真剣になれば、社会は認め、成長させてくれる。こんなやりがいのある仕事はない。岩井 60歳からでも、今までできなかったことや事業を始めてもいいと思う。田中 GIAはまさに起業支援だが、もっと仲間を増やす必要がある。糸井 米国は創業間もない企業に資金を供給する社会貢献活動が盛ん。当座の100万〜200万円を「あるとき払いの催促なし」で支援する仕組みがあればいいと思つてきた。形のないうアイデア、情熱を引き上げる土壌があれば、群馬が新しいことに挑戦できる県になれる。背中を押してやって、失敗も承知の上でお手伝いできればいい。岩井 農業は後継者不足。群馬の農地、耕作放棄地で起業してもうつのほどか。太陽光発電は一つの土地で稲作の40倍の収入になる。二酸化炭素の排出削減は一層求められるし、食べ物も必ず必要。成功例を見せ、若者が農業を始められるステージを作りたい。小野里 金持ちは悪者。借金イコール悪というイメージがなくなればいい。借金はいいことでも悪いことでもなくフラットな状態。浪費は駄目だが、投資はいい。教育の中で、お金に関する知識やノウハウがきちんと伝えられていない。とはいえ、覚悟を決めて始めるのはハードルが高い。産官学の連携をもっと強めること、国やベンチャーキャピタルの支援などがあつてこそ、地域の活性化、技術革新につながると思う。

受け皿の専門会社を 環境づくりで後押し

岩井 小野里

田中 群馬は知名度など、さまざまなランキングで下位が目立つ。多くの起業家を生む県になれば、変わると思う。岩井 「起業会社」をつくってはどうか。若い人は自分で急に独立するのは難しい。起業したい人の受け皿となる専門会社をつくればいい。田中 <谷町>ファンド会社! アイデアとして面白い。岩井 オランダは農家が